

第 10 回武蔵野市図書館運営委員会選書部会の記録

日 時 平成 18 年 3 月 6 日 (月) 午後 6 時 30 分
場 所 中央図書館 4 階会議室
出席委員 毛利和弘部会長 赤星昌子委員 池田泰委員 石田和以委員 山本輝子委員
村田吉祥寺図書館長 加藤サービ担当係長
事務局出席職員 河中館長 山中管理係長 森川西部図書館長 春日図書担当係長
鹿島主事 舩崎専門委員

議題及び内容

○ 主な協議内容

(1) 議題

武蔵野市立図書館の選書について

その他

図書館事務局より前回の委員会の修正を踏まえた「選書部会報告(案)」が提示された。なお、主な意見等は以下のとおり。

- ・これからはますます高齢者が増加する時代。大型活字本を積極的に購入していく必要があるだろう。
- ・点字本については所蔵しているか？
→場所を取り過ぎることと、利用がほとんどないことから、置いていない。点字の利用は全体に減少の傾向にあり、特に中途失明の方は点字を覚えるよりも朗読テープを利用することが多い。
- ・高齢者・障害者をサポートするボランティアは、例えばデイサービス等で全員で工作をするときなど、一時的に多くの本を必要とすることがある。そういったボランティア活動を支えることができるような収書ということを考えても良いのではないかな。
- ・高齢化の中で、介護の情報などは需要が多いはず。ビデオなども含め、そういった資料は積極的に収集することが望ましい。
- ・新公共施設「武蔵野プレイス」の所蔵する資料については、やはり他館との棲み分けを考慮に入れる必要がある。
- ・武蔵野市図書交流センターで預かっている、東京都立図書館の廃棄本 5 万冊については、有効に活用すべく、他自治体と十分な協議を持つべきである。他自治体でも受入が難しいようであれば、「武蔵野プレイス」開館時に所蔵資料として活用する、といったことも検討していく必要があるだろう。